

第104回全国高校野球選手権青森大会

準決勝

弘学聖愛 000 010 001 | 2
 八学光星 000 000 201x | 5

(弘) 津川、葛西、工藤天
 (八) 宇田、富井、洗平歩、文元
 ▷二塁打 葛西、工藤天(弘) 文元(八)
 ▷暴投 葛西(弘) 宇田(八)
 ▷試合時間 2時間36分
 (球審=大森、塁審=小西、小松、澤田)

【評】八学光星は1点を追う七回に文元の2点二塁打で逆転。同点に追い付かれて迎えた九回は敵失、単打、申告敬遠で1死満塁とし、佐藤がサヨナラの右犠飛を放った。弘学聖愛は最後までしぶとく食い下がったが、最後は光星の底力に負けた。

【取材地】弘学聖愛は、甲子園出場チームが決まる。22日午後1時から、同会場で行われる。甲子園出場チームが決まる。



大会第10日



光星執念 サヨナラ

八学光星が昨夏の準々決勝で大逆転負けを喫した弘学聖愛にリベンジを果たした。ナインは先制されたも追い付かれても諦めず、少ない好機を生かして接戦を勝ち切った。仲井宗基監督は「勝利への『執念』を感じた。勝てたのはたまたま。よくチャンスをものしってくれた」とナインをたたえた。

ハイライト

序盤は相手先発の変化球に手を焼き、低めのボール球に次々と手を出した。五回には先制点を奪われ、劣勢に立たされた。

終盤反撃、リベンジ

それでも、七回、今大会不調だった主砲野呂洋翔の安打をきっかけに打線が奮起。2死一、三塁で打席に



【弘学聖愛―八学光星】9回八学光星1死満塁、佐藤航太が右犠飛を放ち、3―2としてサヨナラ勝ちを決める

【弘学聖愛―八学光星】7回八学光星2死二塁、文元磨生が左中間への2点一塁打を放ち2―1と勝ち越しに成功する。

【弘学聖愛―八学光星】9回弘学聖愛2死二塁、八学光星は同点に追い付かれ、2番手の富井翼(右)から洗平歩人に継投する

3投手継投、聖愛封じる

〇…八学光星が3投手の継投で、昨夏の甲子園経験者も並んだ弘学聖愛打線を5安打2点に抑え込み、勝利に貢献した。

先発マウンドに立ったのは今大会初登板の宇田海希。立ち上がりは制球に苦しんだものの尻上がりに調子を上げ、先制されたとはいえ5回1失点と粘投。2番手の富井翼も九回に同点打を浴びたが、六〜八回は二塁を踏ませなかった。

九回2死二塁の緊迫した場面で富井からバトンを受け取ったのは、主戦洗平歩人主将。「一瞬たりとも気を抜けない状況だった」。初球から全力で腕を振って見逃し三振に仕留め、味方の攻撃につなげた。

決勝に向け、洗平主将は「真正面

から力のぶつかり合いになるが、気持ちでひるまず、全員が力を出せば結果はついてくる」と言い切った。



【弘学聖愛―八学光星】9回弘学聖愛2死二塁、八学光星は同点に追い付かれ、2番手の富井翼(右)から洗平歩人に継投する

(上村公悟)